

講演内容

【 特別講演 】

* 「 総合診療 CPC — 診察室訪問 体験しよう診断プロセス — 」

患者様が来院します。患者様への問診、身体所見、触診などから、Dr が何を想定して検査を依頼するのか？そして、採血データ、心電図、エコー・胸部 X 線・CT 画像などの結果からどのような病態が考えられるのか？あなたも研修医になったつもりでアプローチしよう。

自治医科大学名誉教授 櫻林郁之介 先生

* 「 がんばれ臨床検査技師—持て目標を、示せプロたるを— 」

日常業務に携わる皆さん、皆さんはどのような夢（目標）を持って働いていますか？学会や論文発表等の研究をやってみたいと思っている人、検査業務に打ち込みたいと思っている人など様々だと思います。それらに取り組みに当たっての考え方を自分自身の経験を交えながら紹介します。そして、検査技師として、これからの臨床検査にどのように対応していくべきかについて方向性を示したいと思います。

鈴鹿医療科学大学 教授 森下芳孝 先生

【 教育講演 】

* 「 X 線（CT）画像の見方 」

難しいと思われる X 線画像ですが、基礎を理解すれば X 線画像の理解も早いと思われます。そこで、X 線の最も特徴的な X 線強度の違いを利用して胸部 X 線画像や CT 画像の理解を助けたいと思います。

市立横手病院 診療放射線科 技師長 藤原理吉 先生

* 「 循環器基礎疾患へのアプローチ（検査技師の立場で臨床検査データを統合して診る）」

このセッションでは、胸痛・動悸・息切れといった患者様の主訴から、医師は何を目的として臨床検査を依頼するのか、私たち検査技師は医師の依頼に対して、どのように臨床側に返答すればよいのかを、会場の皆様と一緒に考えながら進めていきたいと思ひます。また、心電図・心臓超音波検査、生化学検査などの臨床検査データを統合して解釈するメリットをお話したいと思ひます。

宮城県立循環器・呼吸器病センター 臨床検査技術部 石川和浩 先生

* 「 伝えたい、残したい技術 —先輩技師の知恵ぶくろ— 」

日常検査で、おやっ？おかしいなって感じる時があると思ひます。いろいろな要因が予想されますが、解析して臨床医に伝える事は大切な技師の仕事だと思ひます。今回は、よく遭遇する事例や特別な器材を使わずにアプローチする方法を紹介したいと思ひます。

青森県立中央病院 臨床検査部 佐藤裕久 先生

* 「 知識の整理をしてみよう（生化学・免疫・血液・一般）」

生化学・免疫・血液・一般検査のデータから、何がわかるか？臓器との関連性も含め、データをみるポイントを復習し、知識の整理をしてみましよう。

【 レクチャー 】

* 「 患者様から見えている検査室 」

医療制度改革の重点ポイントのひとつに「患者の視点に立つ」があります。アンケートで集めた患者様の声と、行政の考えと、演者の考えを紹介し、皆様に考えていただくきっかけにしたいと思ひます。

* 「 イムノアッセイとは？ 」

日常検査で使用しているイムノアッセイについて、測定原理などの基礎知識をまとめてみました。なんとなくわかっているようなイムノアッセイですが、この機会にあたまの整理をしていただければと思ひます。

* 「 TAT 改善について A&T が考えるプランや機能について 」

検査室に潜むボトルネックとなる工程を発見し、ターンアラウンドタイム改善のプランや機能を説明する。また今回は、病棟・外来オーダーからの工程を踏まえての TAT 改善にも踏み込んで説明したいと思ひます。

* 「 採血管の取り扱いによる検査値への影響 」

標準採血法ガイドラインと採血管の取り扱いによる検査値への影響についてご説明いたします。